



2019年3月期通期 決算説明会

2019年5月23日

Mipox株式会社(マイボックス)

証券コード 5381

本日の キーメッセージ

<2019年3月期通期 業績概要>

- 受託事業およびハードディスク関連を中心に売上が前年より大きく落ち込む。
- 日本研紙の減損もあり利益は大きく減少。

<2020年3月期通期 業績見通し>

- 業績回復も、本格的な利益改善は来期以降。

<中期経営計画の進捗>

- 事業環境等を踏まえ、業績目標数値を修正。

目次

- 1 2019年3月期通期 業績概要
- 2 2020年3月期通期 業績見通し
- 3 中期経営計画の進捗



1 2019年3月期通期 業績概要



1 -1 業績予想と実績値の差異

2019年3月期通期の業績は、2019年2月14日に発表した業績予想を利益面で大きく下回る結果となりました。

業績予想と実績値の差異理由

(単位 百万円)

	'19/3 通期 前回予想	'19/3 通期 実績	増減額	増減率
売上高	7,553	7,558	+5	+0.1%
営業利益	20	△281	△301	-
経常利益	54	△253	△307	-
当期利益*	17	△967	△984	-

*親会社株主に帰属

(売上面)

売上高は前回予想と同水準でしたが、一般研磨用途の売上が増加した一方、ハードディスク関連の売上が減少しました。

(利益面)

前回予想時点では見込んでおりませんでした棚卸資産の廃棄・評価損、連結子会社(日本研紙)の減損があり、大幅な損失となりました。

1-2 資産評価損

保守的に資産評価の見直しを行い、棚卸資産の廃棄・評価損、および連結子会社ののれん・固定資産の減損損失を計上いたしました。

棚卸資産の廃棄・評価損について

在庫の圧縮並びに適正在庫の見直しを目的に、先々の販売見通しを鑑み、Mipox製品および日本研紙製品の両方で、棚卸資産評価の見直しを実施しました。

その結果、棚卸資産の廃棄損・評価損103百万円を売上原価として計上いたしました。

連結子会社の減損損失の計上について

2016年7月に連結子会社となった日本研紙株式会社で、事業計画に対する進捗が株式取得時の計画を下回って推移しており、工場生産設備およびのれんの減損損失を計上いたしました。

(単位 百万円)

減損損失対象	金額
建物・機械装置等	250
ソフトウェア	77
その他	22
のれん	230
合計	579

1 -3 業績概要

2019年3月期通期の業績は、売上・利益ともに前年を下回る結果となりました。

2019年3月期 業績サマリー

(単位 百万円)

	'18/3 通期 実績	'19/3 通期 実績	増減額	増減率
売上高	7,826	7,558	△268	△3.4%
営業利益	386	△281	△667	-
経常利益	327	△253	△580	-
当期利益*	265	△967	△1,232	-

*親会社株主に帰属

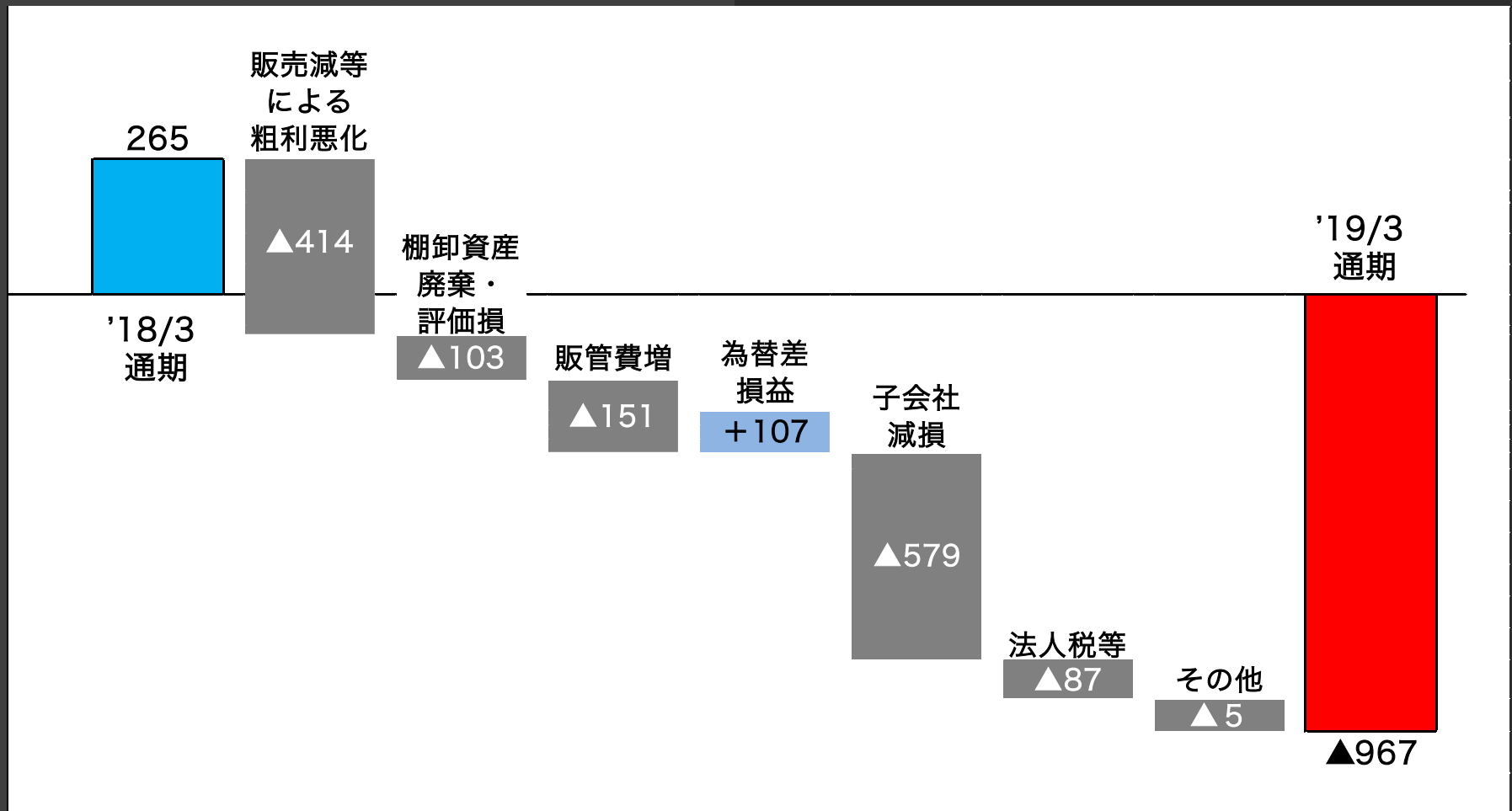
(売上面)

光ファイバー関連および日本研紙製品が前年以上であった一方、ハードディスク関連および受託事業で売上が大きく減少。

(利益面)

売上減少、販管費の増加、連結子会社(日本研紙)の減損があり、大幅な損失を計上。利益は前年を大きく下回る。

1 -4 純利益 増減要因 (対前年同期比)



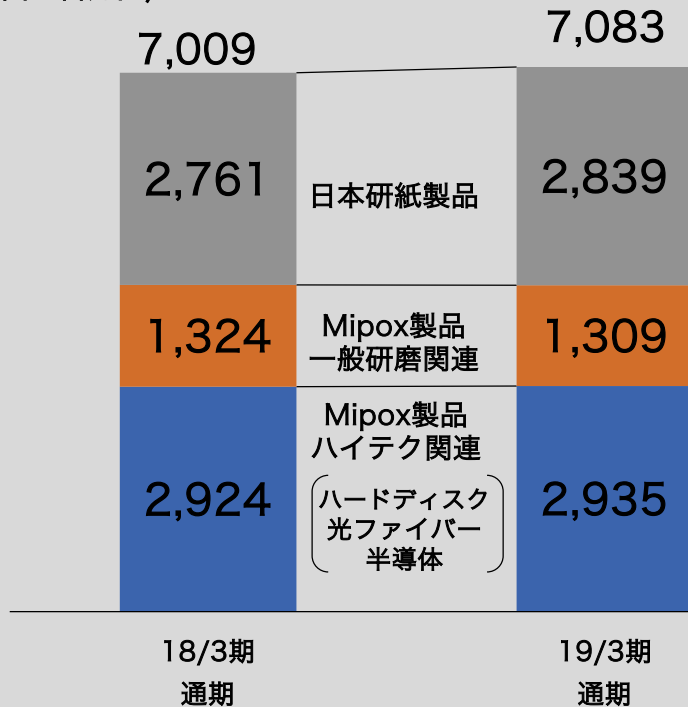
1 -5 セグメント別業績-製品事業

売上高

Mipox製品ハイテク関連は、光ファイバー関連で前年より増加した一方、ハードディスク関連で減少しました。

日本研紙製品は、装置の売上もあり前年以上の売上となるも、海外市場開拓の進捗に遅れ。

(単位 百万円)

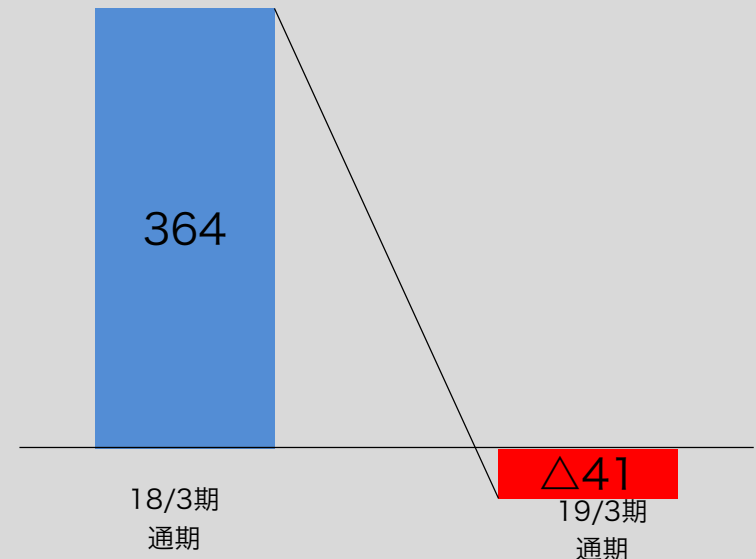


営業利益

ハードディスク関連を中心に利益率の高い製品の売上減少が、粗利率を低下させる結果となりました。

棚卸資産の評価見直しや廃棄損による売上原価の悪化も、利益減少の要因となりました。

(単位 百万円)



1 -6 セグメント別業績-受託事業

売上高

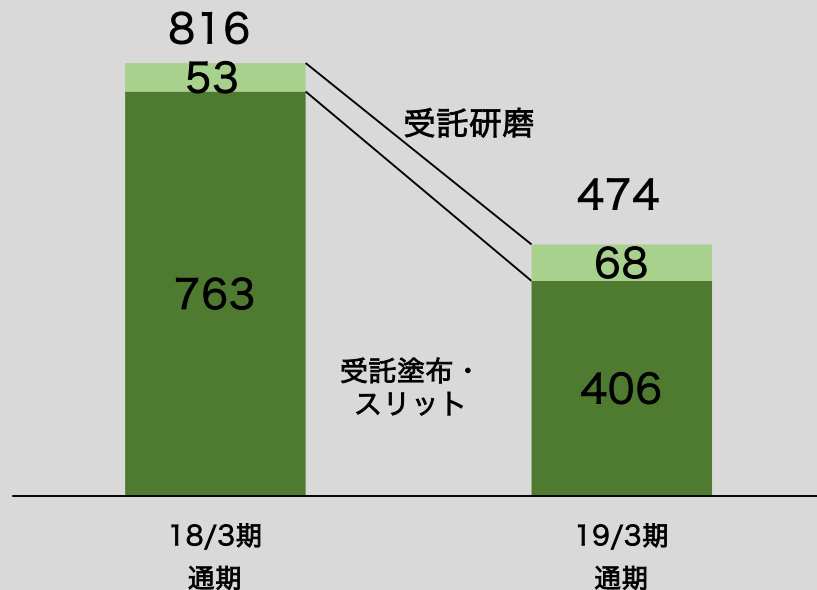
光学系特殊フィルムの受託塗布の需要減が主要因で売上が前年より大幅に減少しました。

受託研磨は当初見通しより減少しましたが、前年比で増加しました。

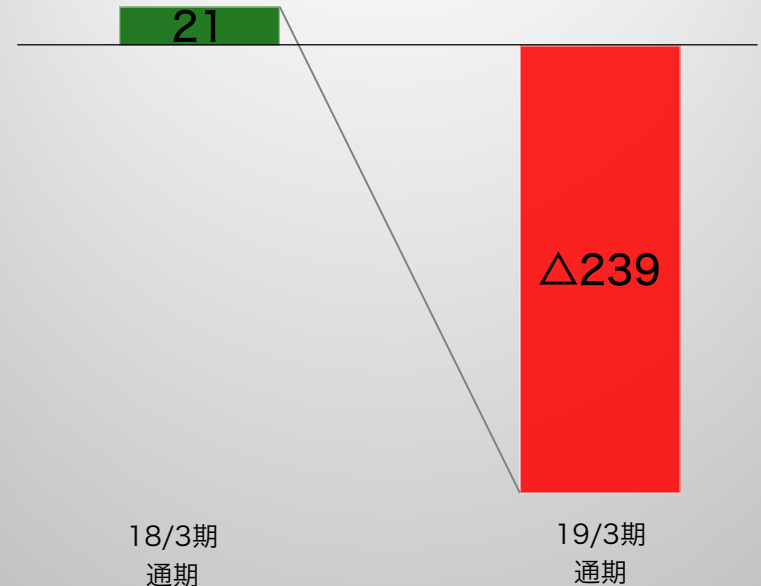
営業利益

売上の大幅な減少で受託事業関連の固定費をカバーできず、前年より大幅な利益減少となりました。

(単位 百万円)



(単位 百万円)



1 -7 貸借対照表推移

	2018年3月末		2019年3月末		増減
	実績	構成比率	実績	構成比率	
現金及び預金	3,165	26.2%	3,275	26.1%	+110
流動資産	7,506	62.2%	8,642	68.8%	+1,136
有形固定資産	3,520	29.2%	3,341	26.6%	-179
のれん	262	2.2%	0	0.0%	-262
固定資産	4,561	37.8%	3,925	31.2%	-636
総資産	12,067	100.0%	12,568	100.0%	+501
短期借入金（社債含む）	1,285	10.6%	1,830	14.6%	+545
流動負債	3,033	25.1%	4,033	32.1%	+1,000
長期借入金（社債含む）	3,603	29.9%	3,453	27.5%	-150
固定負債	4,168	34.5%	4,056	32.3%	-112
純資産	4,865	40.3%	4,478	35.6%	-387
負債・純資産合計	12,067	100.0%	12,568	100.0%	+501
自己資本比率	40.2%		39.1%		-1.1%
借入金合計	4,888		5,283		+395

2 2020年3月期通期 業績見通し



2 -1 2020年3月期通期 業績見通し

2020年3月期通期の業績は、売上・利益ともに前年を上回る見通しも、本格的な利益改善は翌期以降。

2020年3月期通期 業績見通し

(単位 百万円)

	'19/3 通期 実績	'20/3 通期 見通し	前年同期比	
売上高	7,558	8,302	+744	+9.8%
営業利益	△281	56	+337	-
経常利益	△253	6	+259	-
当期利益*	△967	242	+1,209	-

*親会社株主に帰属

(売上面)

製品事業が売上をけん引し、前年以上の売上となる見通し。

(利益面)

利益は前年より回復するも低水準。翌期以降の本格的な利益貢献のための準備期間。

日本研紙株式会社の固定資産譲渡に関わる特別利益を計上予定

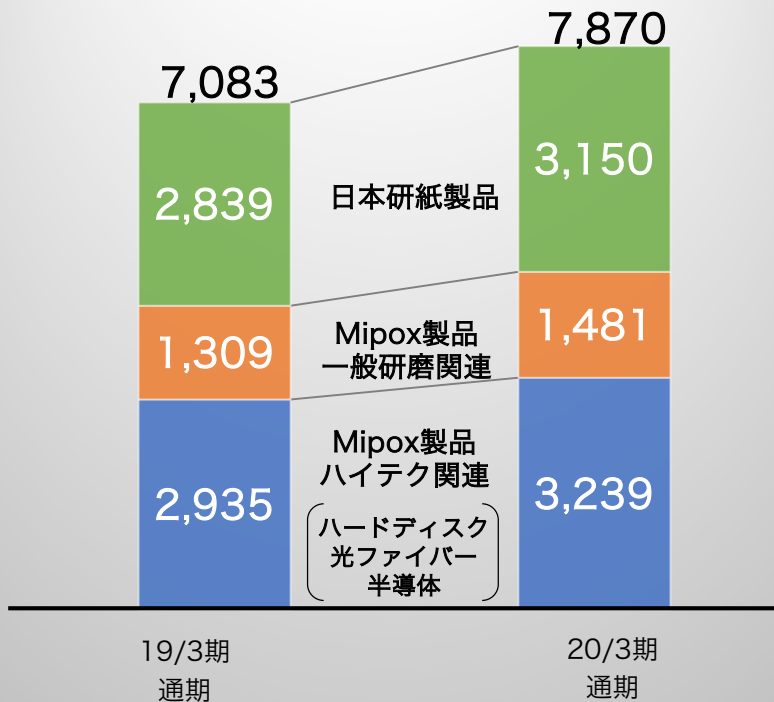
2 -2 セグメント別売上見通し

製品事業

Mipox製品ハイテク関連では、半導体関連で機械装置を中心に増加する一方、ハードディスク関連が前年よりさらに落ち込む見通し。

日本研紙製品は、国内市場・海外市場共に増加する見通し。

(単位 百万円)

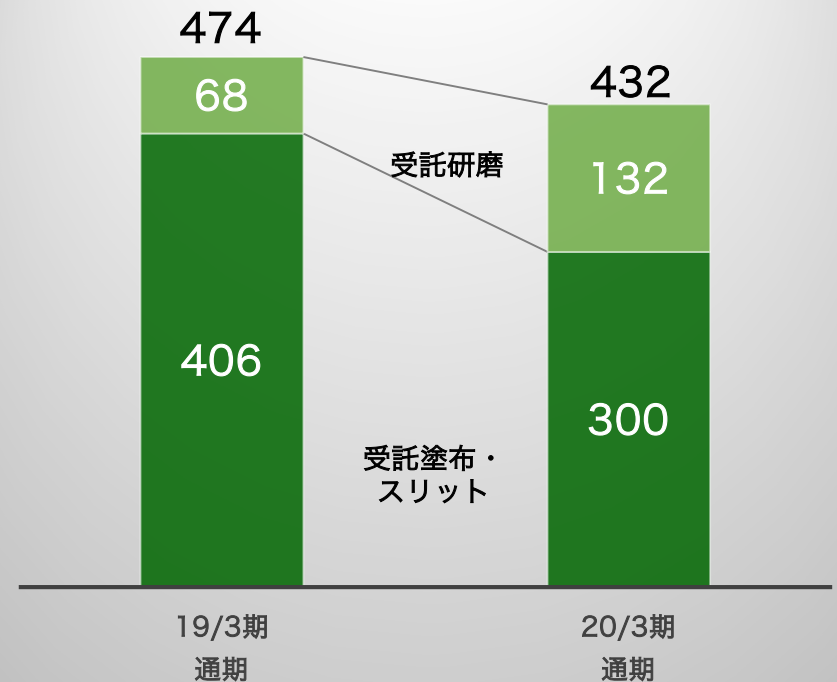


受託事業

受託塗布・スリット関連の回復が見込めず、前年をさらに下回る見通し。

受託研磨関連では新規案件をはじめ、堅調に増加する見通し。

(単位 百万円)



2 -3 配当

	年間配当
2019年3月期	10円00銭
2020年3月期	未定

2019年3月期は1株あたり10円の配当。

2020年3月期は現時点で未定。

今後、業績動向や財務状況などを総合的に勘案したうえで決定してまいります。

3 中期経営計画の進捗



3 -1

中期経営基本方針
のおさらい

エンジニアリングアプローチによる
製品事業の付加価値向上

受託事業からエンジニアリング
サービス事業への転換

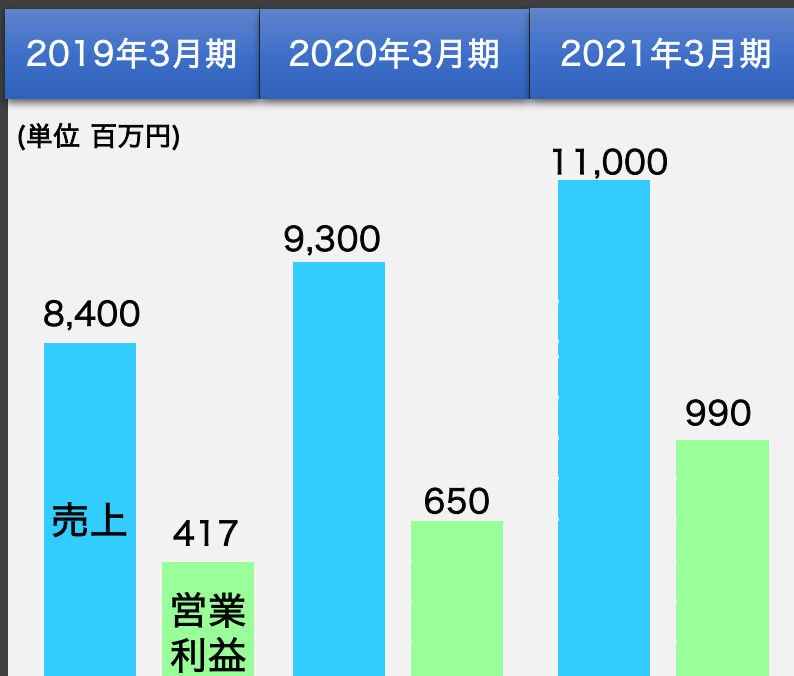
早い変化と多様性に対応できる
経営基盤の整備

「**エンジニアリング**」をキーワード
にさらなる成長を目指す

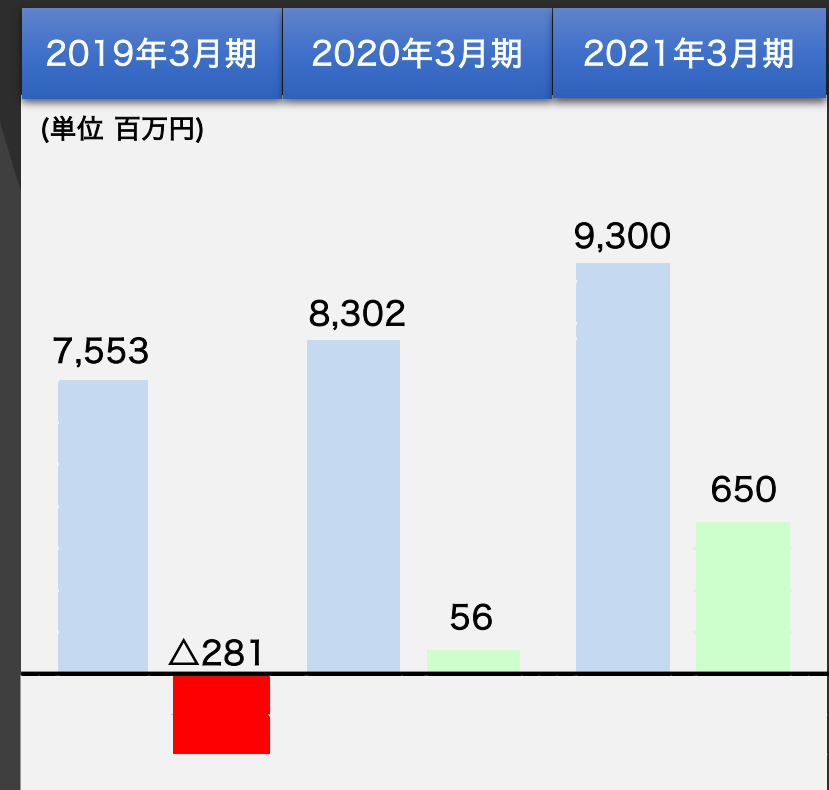
3 -2 中期業績目標数値の見直し

2018年5月発表の中期業績目標数値を修正いたしました。
 中期経営基本方針は変更せず、売上の拡大と2021年3月期以降の利益改善に向け取り組んでまいります。

2018年5月発表時点

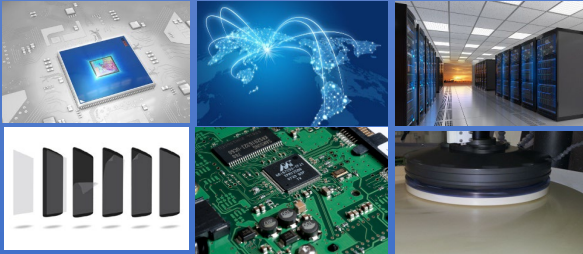


修正数値



3 -3 2020年3月期の取り組み

CSE



Customer Success with Engineering



営業・技術・製造が一体となった組織「CSE」が、高付加価値分野の顧客ニーズ、ウォンツに応えることで、エリア営業をバックアップしてまいります。

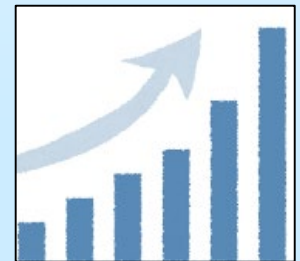


2019年4月より、Mipox製品と日本研紙製品のクロスセリングを本格化し、全製品でのエリア営業にシフトすることにより、顧客コンタクト数を増やしてまいります。



2019年5月に
仙台営業所を新設

コンタクト件数



エリア営業

3 -4 CSEの取組み例-次世代半導体分野への挑戦

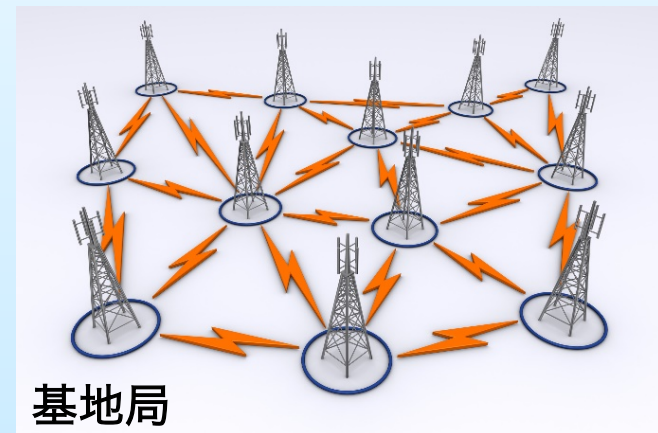
様々な分野で需要が期待される「パワーデバイス」や「高周波デバイス」向けの次世代半導体。それを構成する加工が極めて困難な材料の加工に挑戦してまいります。

パワーデバイス



インバーターやコンバーターなどの電力変換器に用いられ、電力ロスを大幅に削減し、省エネの役割を果たします。

高周波デバイス



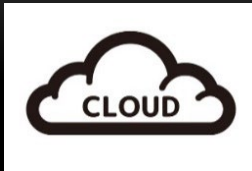
基地局などに搭載され、5G社会の実現に求められる**超高速・多数同時接続・超低遅延**の通信を実現させる役割を果たします。

3 -5 Mipoxの技術で世界を変える

データストレージ・解析



データセンタ



クラウド

データ通信



光ファイバー

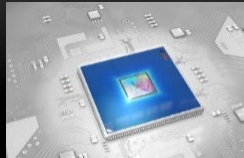


基地局・中継局

省エネ



エネルギー



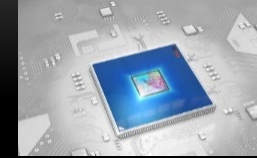
パワーデバイス
(次世代半導体)

CASE
Connected
Autonomous
Shared &
Services
Electric

センサ



カメラセンサ



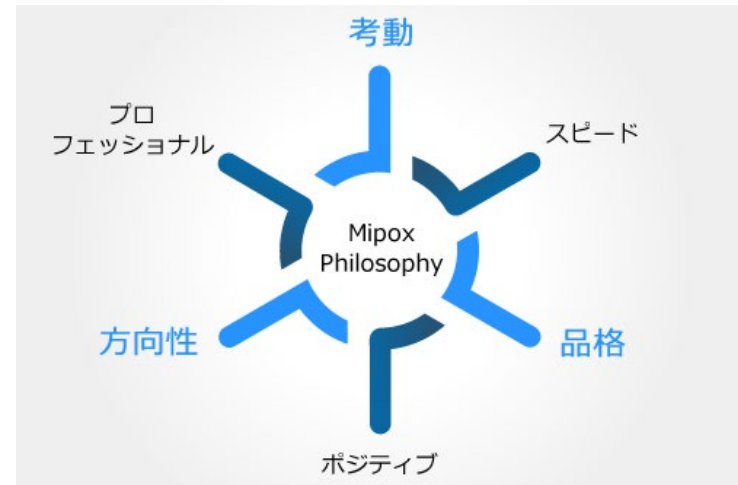
高周波デバイス
(次世代半導体)

当社のコア技術「塗る・切る・磨く」で
より付加価値の高い製品・サービスを提供してまいります。

3 -6 長崎新工場の建設を延期

2018年3月より、長崎県長崎市に新工場を建設する準備を進めておりました。

しかしながら、昨今の建設関連費用の急速な高騰により、当初見込みの建設予算額を著しく上回る見通しとなりました。また、昨今の経済環境の変化及び今後の事業環境が不透明であることを勘案し、計画当初の構想での着工は困難な状況と判断し、建設を延期することといたしました。



IRに関するお問い合わせ先

Mipox株式会社 経営企画部
山崎 友裕

電話：03-6911-2300

E-mail：mipoxir_dept@mipox.co.jp

URL：http://www.mipox.co.jp/

Facebook：https://www.facebook.com/mipox.japan/

本資料における注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する予想、計画、戦略などは、いずれも当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。